

翻訳生産性向上のテクニック

－ PC-Transer 翻訳スタジオ活用法

第 12 回 翻訳ソフト活用トレーニング法（まとめ）

2009 年 6 月 小室誠一（MT 研究会主宰：<http://www.babel.co.jp/mtsg/>）

これまで 2 回に渡って翻訳ソフトを活用するためのトレーニング法を説明しましたが、十分に練習されましたか？今回は、このトレーニングで身に付けたスキルをどのように応用すれば良いか、まとめてみたいと思います。

筆者は、オンラインの翻訳大学院で「英日翻訳ソフト基礎演習」と「翻訳支援ソフト徹底活用講座」を担当しています。基礎演習講座では「明解翻訳」を使って翻訳ソフトを利用した訳文の作り方を、徹底活用講座では

「PC-Transer 翻訳スタジオ」を使って翻訳メモリと翻訳ソフトを総合的に活用するテクニックを教えており、これまでに合わせて 100 名以上が受講しています。

翻訳ソフトは大変便利で十分に役に立つという受講生がいる半面、うまく使いこなせず脱落してしまう人もいます。それでも約 8 割近くはそれなりの成績で修了しています。

講座の中で特に重要視しているのは、ユーザー辞書の登録と中間編集です。受講生は一定レベルの翻訳力があるので、訳文を自力で作成するのは得意ですが、翻訳ソフトの一次出力をそのまま書き直すのでは生産効率は向上しません。また、不適切な一次出力文に引きずられてぎこちない訳文になったり誤訳になったりすることもあります。ですから、辞書登録→中間編集→後編集という作業工程が不可欠なのです。

たいていの人は 1～2 ヶ月間トレーニングをすることで、適切なプロセスに沿った翻訳ができるようになりますが、文法力が弱く、感覚的に訳すクセのついている人は翻訳ソフトに馴染めないようです。それが全体の約 2 割ということになります。

●翻訳ソフトで訳文を作成すること

翻訳ソフトの利用範囲は大変広く、色々な使

い方ができます。

例えば、自分には全くわからない言語で書かれた文章の大体の意味を知りたいときを想像してみれば、その便利さが分かるでしょう。

次に、プロの翻訳者ではない人が、必要に迫られて翻訳しなければならなくなったときに、「意味が分かる程度の訳文」を作成するために使用する場合があります。

そして、プロの翻訳者が商品としての訳文を作成する場合です。ただし、この層には翻訳ソフトを忌み嫌う人が今でも数多くいます。翻訳ソフトを使うと読解力が落ちるとか訳文がぎこちなくなるという理由が多いのですが、その昔、ワープロが普及し始めたときに、ワープロを使うとともな文章が書けなくなるという手書きにこだわった人とそれほど変わらないように思えます。

確かに、翻訳ソフトは自動的に訳文を出力してくれるものの、少しでも気を抜くと低レベルの訳文が最終段階まで修正されずに通ってしまう恐れがあることは否めません。そのような事態を防ぐために、20 年にわたって蓄積したノウハウの一部がこれまでに紹介したトレーニング方法です。

くどいようですがトレーニングのポイントをもう一度挙げておきましょう。

- (1) 訳文を先に読まないで原文の意味をつかむ
- (2) 一次出力の訳語に惑わされない
- (3) 修飾語の係り受けに敏感になる
- (4) 分割した訳文を上手につなぎ合わせる

